

町の考えを問う

一般質問 10議員が登壇

町政を問う一般質問は、12月4日、5日の両日、行われました。議長を除く10議員の全員が登壇し、町と町教育委員会の考えをただしました。議会だよりでは、目次に全質問項目を、各議員のページには質問内容と答弁の要旨を掲載しました。

- 1. 加々見保樹 議員**
 - ・通称「中学林」の大規模太陽光発電事業
 - ・介護サービスの現状
 - ・県立高校の再編成を含めた「学びの改革基本構想」
 - ・保健行政(特定疾患)
- 2. 名取久仁春 議員**
 - ・地方創生加速化交付金
 - ・カシス特産化構想とワインバレー構想
- 3. 小林市子 議員**
 - ・支え合いマップの活用実態
 - ・ネットブック開発支援の成果品「花のアプリ」
 - ・観光振興の在り方
- 4. 五味高幸 議員**
 - ・富士見町の町章が採用された経緯
 - ・ふるさと納税の使途と返礼品の工夫
 - ・台風21、22号による被害状況
- 5. 三井新成 議員**
 - ・役場周辺の駐車場 ・特定移住者の空き家補助
 - ・多目的交流広場の建設
- 6. 小池 勇 議員**
 - ・理科教育の一層の充実を求める
- 7. 矢島 尚 議員**
 - ・境小学校前の森林伐採
 - ・園児減少、今後の保育園、小学校の運営
 - ・信濃境駅前活性化に縄文をPRできないか
- 8. 名取武一 議員**
 - ・国民健康保険の都道府県化
 - ・富士見パノラマスキー場 ・リニューアル・ラッシュ
 - ・障害者の支援
- 9. 織田昭雄 議員**
 - ・町内の防犯対策は万全か
 - ・富士見高校の県内公立高校再編の動きに与える影響
- 10. 川合弘人 議員**
 - ・境小学校前の森林伐採とメガソーラー計画の関係
 - ・医療依存度の高い人への町の支援策は
 - ・議会事務局と議会棟の改善
 - ・基準値を超えた放射性セシウム検出への町の対応
 - ・富士見中学校の集団登山中止後の対応は

※質問順は議会運営委員会の中で、委員によるくじ引きで決めています。※一般質問の要旨は、各議員が自分のページを編集しています。

■**県立高校の再編成、小学校卒業式**
質問 「学びの改革基本構想」での高

問 太陽光発電計画は近年の異常気象・水害に充分耐えられる設計か。
副町長 50年に一度の降雨に耐えられる設計で、技術的に安全の基準を満たしていると考えている。

問 計画場所は、最近テレビ・映画のロケ地として脚光を浴びているが、それを失うことに対する感想は。
町長 貴重な観光資源を失うことは大きな痛手である。財産区が利活用を模索する中で決断で、下流域に対しての水害対策が図られる観点から意義のあるものと受け止めている。

問 新介護支援総合事業の評価は。
町長 従来から町単独の介護予防・日常生活支援事業として実施していたけどどどの利用者がサービス内容を引き継ぎ、問題なく移行できた。

■**介護サービスの現状**

問 「24時間ケアサポートふじみ」の利用者とのテレビモニターが故障で稼働していないと聞くが。
町長 導入時からアプリの不具合で利用できていない。3月までには新たなシステムで稼働する。

問 計画場所は、最近テレビ・映画のロケ地として脚光を浴びているが、それを失うことに対する感想は。
町長 貴重な観光資源を失うことは大きな痛手である。財産区が利活用を模索する中で決断で、下流域に対しての水害対策が図られる観点から意義のあるものと受け止めている。

問 新介護支援総合事業の評価は。
町長 従来から町単独の介護予防・日常生活支援事業として実施していたけどどどの利用者がサービス内容を引き継ぎ、問題なく移行できた。

問 「24時間ケアサポートふじみ」の利用者とのテレビモニターが故障で稼働していないと聞くが。
町長 導入時からアプリの不具合で利用できていない。3月までには新たなシステムで稼働する。

問 計画場所は、最近テレビ・映画のロケ地として脚光を浴びているが、それを失うことに対する感想は。
町長 貴重な観光資源を失うことは大きな痛手である。財産区が利活用を模索する中で決断で、下流域に対しての水害対策が図られる観点から意義のあるものと受け止めている。

問 新介護支援総合事業の評価は。
町長 従来から町単独の介護予防・日常生活支援事業として実施していたけどどどの利用者がサービス内容を引き継ぎ、問題なく移行できた。

問 「24時間ケアサポートふじみ」の利用者とのテレビモニターが故障で稼働していないと聞くが。
町長 導入時からアプリの不具合で利用できていない。3月までには新たなシステムで稼働する。



加々見 保樹

答 **安全は十分に担保されている**
中学林の太陽光発電は安全か

問 校再編成で富士見高校への影響は。
教育長 影響はあると危惧している。現在は312名の生徒が在籍しているののでしばらくは大丈夫と思うが、推移を見守りたい。

問 小学校卒業式で中学の制服を着用しているが、指示しているのか。
教育長 指示はない。学校から、式に相応しく華美にならないよう通達。

問 式場で、付属中学の制服と混在すれば不合格の生徒・家族の心情を逆なですることにならないか。
教育長 付属中学の受験前と、合格発表後、学校では丁寧にケアしている。これからも服装への指示は出さず、保護者の判断に委ねていく。

■**特定疾患、富士見町の現状**
問 富士見町の患者の動向を把握しているか。
町長 要配慮者名簿で把握している。

問 重篤な神経難病患者のために、「意思伝達装置」を購入して、希望する患者に貸し出す考えはあるか。
住民福祉課長 器具の貸し出し制度は現在ない。貸し出しができるかを研究したい。



名取 久仁春

花アプリ開発の今後の展開は

答 予算投入せず事業継続を検討

質問 来年度は第5次総合計画の前期終了年であり、それに見合った程度の効いた予算編成に期待する。まず、入笠山山野草ネットブック（通称花アプリ）の今後の展開は。

町長 現状では、町の予算は使わないうが、何らかの方法で事業が継続できないか検討中だ。検証結果はすでに国に報告した。この事業はいったん終了となっているが、会計検査の際には進捗報告を求められる場合もある。その際には対応していきたい。

質問 農業ITと健康増進ITプロジェクト調査報告書の活用は。

町長 提案書は現場の声を元に、いかにITを活用するかを提案されたものであり、今後も活用していきたい。菊づくり支援アプリは多品種に対応でき、町の農業に合ったものだ。JAと協議をして事業主体も含め改めて方向性を定めていく。ITは必要なツールであり、森のオフィスの活用も含めて検討していきたい。

質問 農業ITは、もう一歩進んで、葬儀需要や個人の購買率、購買回数等のビッグデータを活用したマーケット予測に重点を置いたソフトは考

えられないか。

町長 提案はごもつともであるが、まだJAとの議論も進んでいないので、今後の参考にさせていたたく。

■カシス特産化とワインバレー構想

質問 カシス特産化構想とワインバレー構想の今後と課題は。

町長 ワインバレーは3年間での試験栽培が終了し、6品種のワインを試作した。カシスは約700本を定植して、収穫した実のうち、15キロをカシス酒にした。今後の課題は機械による選別・洗浄をいかに実現するかだ。

質問 ワインバレーへの補助金の活用は。またカシスの事業化にふるさと納税のガバメントクラウドファンディングを活用し、資金調達を行い、成果を納税者に還元するのが良いのでは。

産業課長 ワインバレーは、法人化を検討しており、補助金対象にはならない。

町長 カシスの事業化への提案は選択肢の一つではあるが、もう少し事業を進め、改めて検討したい。



小林 市子

支え合いマップ利用の仕組みを

答 日常の見守り活動などに活用

質問 今後、誰にでも起こり得る認知症や障がいを持つ弱い立場の状況に陥った時に役立つように、支え合いマップの情報を、常会とか隣組組織、その周辺の狭い規模の地域住民にフィードバックする仕組みがでないか。

町長 現在38地区で支え合いマップの作成が完了した。課題を再認識して日常的な見守り活動の強化や、住民相互の福祉活動の推進に活用している。その他、近年増加傾向にある行方不明者の情報としても活用している。

質問 支え合いマップを更新する際に、欠席した個人には、自分の情報の存在は見えない。独居や高齢者世帯が増大傾向にある中で、災害時に情報を共有し、より近くで助け合いができるように、個人が参加しやすい常会などへ、情報の提供は可能か。

町長 作成した支え合いマップは、社会福祉協議会にデータ入力を依頼し、各区へ提供している。コピーしたマップ情報は、個人から同意書を提出していただいた上で、各区の要望に応じて常会などへのフィードバックは可能だ。

■入笠に咲く花を観光に活かす方策

質問 インターネットでは花の百名山の情報を発信し、観光客が前もって季節に咲く花、多様な山野草を調べ、実際に訪れて花との出会いを楽しむような観光振興の考えは。

町長 観光に訪れた方だけに配布する「入笠に咲く花」のガイドブックは、現地を訪れた方にプレミアム感を与え、喜んでいただいている。提案された情報発信は、入笠山の観光に活かせるもので、まだ訪れたことのない全国のお客様に活用できると考えられる。パノラマリゾートのホームページに、入笠植物図鑑のページがあり、開花情報とともに種類を詳細に紹介している。町の観光ホームページともリンクさせることは可能なので、誘客につなげたい。



五味 高幸

答 横断的なチーム設けて検討
ふるさと納税の用途を明確に

質問 ふるさと納税の用途を、教育施設の建て替えや延命、高等教育の支援等目的別の基金とする考えは。返礼品は町内の観光・宿泊など交流人口の増加から、移住・定住につながる工夫を。積極的に取り組む考えは。

町長 老朽化する施設の対策など、共感を持てる事業や、継続的な納税の仕組みづくりが大切。返礼品の開発も含めて横断的なプロジェクトチームを立ち上げて検討する。

質問 高額返礼品の見直しと影響は。
総務課長 納税額は昨年同等で今後も推移すると思う。170万円ほどのストープも2台希望があったことも要因か。今後、若い職員を含めたプロジェクトチームでより魅力を高めたい。

質問 町内出身者の大口寄付に対する町の考えは。
総務課長 故郷を思う気持ちを大切に受け止め、返礼品に頼るのではなく、今後は使い道重視で対応したい。

■台風による町内の被害状況は
質問 町内70カ所ほどで被害が認められたと聞くが、状況と対応は。瀬沢区内の乙貝川では氾濫の危険はな

かったか。

町長 甚大な被害は無かった。小六区内で河川増水により農地の一部が崩壊したが、大型土嚢で対処した。乙貝川・宮川で増水の恐れがあり、地元区消防と連携して対応した。乙貝川は未整備の部分もあり、引き続き県には河川改修の要望している。

質問 町内の下水道マンホールからの流出事故は。確認と対応は。
町長 ポンプ故障による事故はなかったが、急激な豪雨による雨水の流入で小六、富原、富士見の3カ所でマンホールポンプがオーバーフローした。担当課で雨水、不明水の調査をしているので、結果を見て対応する。

■町章制定の経過、藤沢市との酷似
質問 町章のデザインはどのような過程で制定されたか。昭和25年制定された藤沢市と酷似しているが。
町長 昭和38年4月に制定された。フジミをデザイン化し、和・団結・発展を象徴。一般的な発想だったと推測する。章は思いの象徴で独自性、類似性にはこだわらない。

質問 多目的交流広場「ゆめの森公園」(仮称)の建設で予算不足が生じ、補正予算として4000万円を計上せざるを得なかった要因と、事業を遂行してきた責任はどこにあるか、またその責任の取り方は。
教育長 公園建設について、補正による追加予算をお願いしなければならぬ事態になったことに対して、事業の遂行責任者としてお詫びを申し上げる。リーダーである私に責任があり、見通しの甘さが招いた結果と反省している。責任の取り方としては、公園の早期開園を、子どもたちをはじめ、多くの町民の皆さまが完成を楽しみに待ち望んでいるため、一日でも早く町民の皆さまに喜んでもらえる広場を造り、完成後には、多くの町民の皆さまが集い、交流を深め楽しんでもらえる、また各種イベントで活用していただけるように、精いっぱい取り組んでいくことで、その責任を果たしていきたいと考えている。本当に申し訳ございませんでした。

町長 本件に付いては事業遂行のため精査と議会に対しての説明が遅きに失し、後手に回ってしまった結果と思っている。これらの点について

では率直に反省し、今後に活かして行かなければならないと考えている。事業を始めるときには副町長であり、現在は町長の立場として、お詫びを申し上げる。仕事の進め方には、確かに不十分な点はあった。しかし、町の会計に毀損を与えているわけではない。責任の取り方としては、まずは町民のために立派な公園を造ること、そして、その後の管理運営をきちんと続けていくこと、ここに尽きると考えている。

副町長 この度の問題点として、事業内容の把握が不十分であったこと、国の拠点整備交付金を使いたいという事情があり、タイトなスケジュールの中で始めざるを得なかったこと、計画から準備・実行と担当課が移動したため、仕事の受け渡しが十分に精査されないまま進行してしまったことなどが挙げられる。この反省を踏まえて、今後はきちんと計画を立て、精査をしながら事業を進める環境づくりをしていく。



三井 新成

答 見通しの甘さが招いたと反省
公園建設、予算不足の責任は



小池 勇

理科教育の充実を求める

答 諏訪理科大を活用したい

質問 全国的に理科嫌いが増えていく。技術立国日本の将来が心配されることから、小中学校での理科の授業時間が増えた。特に中学校では95時間の大幅増となった。「理振」の報告では、設備・備品・消耗品等の充足が著しく立ち遅れていると言われている。富士見町の現状はどうか。

教育長 全国平均の充足率は小学校で50%、中学校で37%。対して、富士見町では小学校74%、中学校64%で、完ぺきとは言えないが、最大限努力している。県の平均は30〜40%と推測される。今後も補助金を最大限活用して、理科教育の環境整備に努める。

質問 国の補助金を活用するため、自主財源も可能な限り投入して取り組んでいることが分かった。教育の町富士見に恥じないと、誇りに思う。ところで、新年度から茅野市の諏訪東京理科大が「公立大学」に再編される。新しい大学は、地域貢献を大きな目標に挙げている。小中学校での理科教育を補完するために活用できると思っているがどうか。

教育長 「理科大」の活用には大きな期待をしている。ただ、学校での理科教育との関連性や進め方等の課題

はあり、今後研究していかねければならないと考える。同時に、これは富士見町だけで進められる話ではないので、諏訪圏域6市町村とも連携して検討していきたい。

質問 学力とは何かを考え続けている。技術が進み、物は豊かになったが、「生きる力」は低下している。感性が柔軟な間に理科の実験を通して「驚き」を体験させ、奥にある物を追及する訓練が、主体的な学習につながる。

教育長 理科に限らず、あらゆる科目で生活感が伴わなければ真の学びにならない。現在の教育はこれが潮流になっている。

質問 町内には自然に関連した著名人がたくさんおられるが、積極的に活用しているか。

教育長 写真家の西村豊先生には本郷小だけでなく各校がお世話になっている。全町一律ではなく独自工夫して、コマ作り、アツモリソウの学習、富士見高に出向いての作物や土の勉強等様々な取り組みがされている。諏訪教育会の協力で科学教室も開いた。「コミュニケーションスキル」も同じ趣旨である。



矢島 尚

境小学校前の森林伐採は

答 逸脱行為なら行政指導する

質問 境小学校前の森林伐採は、森林の天然更新と聞くが土地所有者、事業主はソーラー関係者との話も聞く。それは事実か。数年後ソーラー計画があるのでないか。天然更新の場所はその計画は可能か。

町長 伐採届けが出された地番が太陽光発電計画の事業エリアに該当していることは承知している。現時点では判断ができないので推移を見守り、届け出から逸脱した行為があれば県と連携して行政指導をする。計画を周辺住民に説明することは必須で住民不安を解消することは事業者の責務だ。

総務課長 天然更新と造林の届出を出しておきながら、大型開発をしようとすることがあれば、事業者に対して毅然とした対応で臨みたい。



伐採された境小学校前の森林

■園児数減少、今後の保・小の運営は

質問 来入児数が減少しているが、今後の対応は。以前「5保育園と3小学校は維持する」と答弁されたが、今後の運営面などに問題はないか。

教育長 境保育園と落合保育園の減少に注目している。町全体としても出生数の減少が進んでいることから、今後の推移を更に注視し、運営面を慎重に見極めていく必要がある。小規模保育は、落合保育園での実績はあるが経費は他園よりかかる。小学校時代に少人数であっても中学で新たな出会いと環境により、よい育ちは保障されている。

■信濃境駅前活性化に縄文のPRを

質問 井戸尻を利用し観光面からも今以上に充実を。43年経過する考古館の施設改修計画の考えは。

町長 駅から井戸尻までの表示看板等、不足している場合は検討する。

駅構内の写真の入替は今年度予算でリニューアルする予定。施設改修など改善すべき点は理解しているが個別の管理計画を考えている。

産業課長 インバウンド対応の英語標記なども今後対応していく。



名取 武一

**国保料が県内で上位、軽減措置を
繰越金と基金投入で軽減を図る**

質問 新年度より国民健康保険の都道府県化になり、県から第3回試算結果が発表された。これをどう受け止めているか。

町長 厳しい試算結果であると受け止めている。

質問 試算結果を見ると富士見町は諏訪圏内では一番高く、長野県内でも上位を占めている。国保料軽減のための施策はあるか。

町長 試算結果では富士見町の一人あたりの納付金額は一人当たり約12万9千円、県内では9番目。激変緩和措置後でも約11万6千円で、17番目。諏訪管内では一番高い試算となっている。繰越金と財政調整基金を投入することで保険料の軽減を図りたい。

質問 資産割合も他市町村に比べて極めて高い。4方式を、資産割合を除く3方式に変えるべきではないか。

町長 県では算定方式を3方式にするとしている。固定資産は負担能力につながるが、低所得者層の負担になつてのことから、応能割に資産割は含めず、所得割のみとすべきとの意見もあり、県の試算も参考にし、3方式について研究している。

住民福祉課長 応能割のうち4方式

の資産割合を除いた3方式にした場合、最大で年間14万円上がる方、18万円下がる方がいるという試算結果がある。所得の少ない人になるべく負担が偏らないように、さらに検討を進めている。

■富士見パノラマリゾート

質問 今まで「情報開示」について不十分なところがあったと発言されたが。

町長 今まで町民への情報の提供は単年度の営業成績だけに偏つていたと思う。負債・資産の状況を含めた経営状況を報告したい。

質問 富士見パノラマリゾートの施設リニューアルが喫緊の課題としているが。

町長 観光施設の要素を考えると、大きな課題だと考えている。来年の今ごろにはある程度の目安を付けたい。少なくとも内部では、と考えている。



織田 昭雄

**町内3駅に防犯灯の増設を
答 地元区の要望で設置する**

質問 町内の防犯対策は万全か。全国的に多発する凶悪犯罪に対する防犯カメラの抑止力と効果について町の考えは。

町長 平成28年度の犯罪件数は48件で富士見町の状況から考えると、町民の声かけ、住宅及び車両へのかぎ掛け、車に貴重品を残さないなどの心掛けで防ぐことができるものがほとんどだ。防犯カメラについては犯罪の解決と抑制に一定の効果があることは事実だが、一方で、住民のプライバシーの保護という観点からは課題がある。慎重に対応する必要がある。

質問 富士見区のJR線沿い通学路に、防犯カメラを設置すべきではないか。

町長 富士見町では防犯組合と子ども課でのぼり旗を作製して注意喚起をしている。防犯組合では警察や関係団体と連携して広報活動や防犯チラシを配布し、町民の防犯意識の向上を図るとともに地域と連携して防犯対策を行っていききたい。防犯カメラは慎重に対応したい。現場を確認したので、まずは防犯灯の設置に向けて関係する方々と協議をする。

質問 夜の駅前広場が暗すぎる。町内3駅に防犯灯を増設できないか。

消防課長 駅周辺の防犯灯だが、夜に回ってみた。JR沿いの階段部分だが、富士見区から要望が出ているので設置する。信濃境駅も午後7時を過ぎると暗い部分もあるので、地元区の要望により設置したい。

質問 富士見高校が町に残るための支援の在り方で、議論が必要では。

教育長 富士見高校のあり方を考える会の準備会が持たれ、今後の進め方などを協議した。高校再編を視野に入れ、富士見高のあり方や未来像を考え、関係者や地域が一体となつて、支援の重要性を確認した。



富士見区諏訪神社北側のJR線沿い通学路



一時は療養入院に対応したことのある老人保健施設あららぎ

質問 国は、急性期型の病院に対し、安定期に入った患者の退院・転院を促している。医療依存度が高く、継続的な看護が必要でも、3カ月の区切りを設けている。国や県の一歩前に行く「退院支援」を行う考えは。

町長 医療依存度の高い人が一定期間を経過し、退院調整を行う際には、必要な制度を活用し、個別支援計画を家族に提案している。

質問 資格のある専門業者の活用は。

町長 地域によっては生活を支える仕組みがあるが、当町は介護人材が不足し、活用する介護資源がない。

質問 富士見高原病院との連携は。当施設を補助し、療養型病棟など受け入れ先を新設しては。

町長 現実的ではないと伺っている。

住民福祉課長 一時的に在宅で対応



川合 弘人

答 安定期の患者への「退院支援」を個別支援計画を家族に提案

し、病院に戻るケースもある。介護保険施設あららぎは一時、療養に対応したが、現在はできない。

■境小前の森林伐採とメガソーラー

質問 境小前の森林伐採と、メガソーラー計画との関係は。

町長 森林所有者10数人が筆ごとに森林整備のための伐採届けを提出した。目的は天然更新で、太陽光発電の記載はない。森林法、環境保全条例に抵触した時点で、県、町で行為を中止させ、適切な指導をする。

■放射性セシウムの風評被害対策

質問 ニホンジカの基準値を超えた放射性セシウム検出で、原発事故との因果関係は。風評被害対策は。

町長 因果関係は不明。町内で捕獲された鹿の全頭検査を行い、安心安全な食肉であると確認しながら、出荷・販売自粛の早期解除を目指す。

■富士見中のスキー教室中止

質問 富士見中が1、2年生のスキー教室も中止した理由は。

教育長 集団登山の中止と同じ理由。パノラマスキー場からは「了解する」との話を受けた。

富士見産ワイン、カシス酒を試飲

富士見町が試験栽培を行っているブドウとカシスを醸造した赤ワイン、白ワインとカシス酒の試作品が出来上がりました。試飲会は、町議会が今年度の幹事を務める「町内5団体（町、農業委員会、商工会、JA、町議会）交流会」の席上と、町議会単独でも行われました。



富士見高原産のブドウ、カシスから醸造したワインとカシス酒を試飲する「町内5団体交流会」の参加者（JA会館ぶじみ）

ブドウとカシスはいずれも2017年秋に収穫したものです。ワインは専門メーカーに委託して、赤と白の計6品種を醸造。カシス酒は町内業者に委託して試作しました。

熟成期間が短いため、酒のうま味を味わうほどまでには完成されていませんが、品種のそれぞれに特徴があり、「富士見町の特産品として、期待が持てる出来上がり」と評価の声が上がっていました。特にカシス酒は、「商品名を『月よりの使者』にしては」という提案まで聞かれました。

ワインバレー構想

醸造用ブドウは机地区の農地にメルロー、シャルドネなど9品種、90本を定植。産地の塩尻市と同等な栽培ができるという結論が出た。今年度は8品種から77キロを収穫。このうち、6品種をワインメーカーで醸造した。赤ワインは発色が良く、白ワインは香りが高いことが分かった。

カシス特産化構想

ニュージーランド産のカシス苗木を輸入し、平岡地区の農地に2013年度から17年度末までに約700本を定植。収穫した実のうち、15キロをカシス酒にした。アルコールに漬けて込んでエキスを抽出する方法で醸造し、砂糖で甘みを加えた。今後の課題は、機械による選別・洗浄を実現することだという。